

2025年度 自己評価報告書

2026. 3
白鳩チルドレンセンター南丘

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画 子ども園として特に配慮すべき 事項 ・教育・保育課程 ・教育環境の整備 ・研究の取り組み 等	・0歳児からの保育の重要性について、園内研修や会議などで学びながら、乳児保育についての学びを全職員で深めた。 ・教育基本法及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に従い、学校教育及び保育を行うことを目的としていることを全職員が共通認識したうえで、白鳩チルドレンセンター南丘の「全体的な計画」を基に年間カリキュラム、月案、週案を立案、作成を行った。 ・年間カリキュラムでは、内容が具体的に「5領域」の何に繋がっているのかを記載すると共に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」「教育・保育において育みたい資質・能力の3本の柱」を意識しながら、子どもの姿とリンクさせ保育を進めた。
健康支援	・今年度も季節に関わらず色々な感染症が流行した。（溶連菌感染症・RSウイルス・手足口病・インフルエンザ・コロナなど）感染症予防のため、園では手洗い、うがいなどの徹底と保護者への啓発を行った。 ・保護者に対して、感染症の情報などを迅速にモバイルメールを使って配信できるように体制を整え活用した。また、玄関の掲示板には感染症についての張り紙を掲示した。 ・引き続き、看護師が中心となり、感染症が発生した場合の対策方法や、SIDS対応、心肺蘇生法（AEDの使い方）などの研修を行い、全職員で学ぶ機会を持つことで、職員一人ひとりが臨機応変に動けるように務めた。 ・「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」の内容を全職員で確認し、共通理解を図った。また、食物アレルギーによる発作が起こった時の緊急薬（エピペン）について全職員で使用方法について把握するために勉強会を行った。
安全管理	・園内の安全管理を進め、チェック内容については、記録として残し次へ繋げていけるようにした。 ・消防署、警察と連携しながら、総合避難訓練や救命救急講習を行った。また、9月に不審者訓練を行い、もしもの時に職員が対応できるようにした。訓練後は職員間で話し合い確認を行った。 ・災害発生時には保護者に対して、迅速にモバイルメール配信システムを使い連絡をとることができるようにシステム化している。 ・災害時の備蓄品や防災マニュアルの見直しと確認を行い、職員間で共通認識した。消費期限が近い食べ物は、園のおやつとして活用し、新しいものを買い足し緊急時に備えた。
食育の推進	・魚国総本社の管理栄養士と連携を図りながら、給食メニューの見直しなどを実施した。また、食材の大きさや固さなどにも十分配慮しながら、子ども達の命を守るために情報の共有などを行った。 ・3、4、5歳児は、夏野菜の栽培を行い、その夏野菜を使ったクッキングを行うなどして食育活動を進めた。その結果、苦手な野菜であっても、食べようとする子どもの姿がみられたり、食材に興味、関心を示す子どもの姿が多く見られた。 ・食育指導や菜園活動、クッキング等、食を営む力の基となる食育活動を経験することで、子どもの興味や想像力を広げ、食べることへの意欲を高めることができた。また保育者は、食べることの楽しさを味わいながら、自然の恵みや全ての命の大切さを感じたり、調理する人への感謝の気持ちを育てるための関わりを意識した。 ・食事の前後には、必ず「いただきます」「ごちそうさまでした」と言うことを習慣化させ、食べることへの感謝の気持ち育てを行った。 ・3、4、5歳児は月に1回、食育指導の時間を作って、旬の食材に触れる機会を持った。様々な食材があることを知り、興味や関心を持つことで、食べる喜びや楽しさに繋げることができた。

子育て支援 ・入園している子どもの保護者 ・地域の子育て家庭 ・地域との連携 等	・子育てに悩みを抱える保護者に対して、園長、主幹保育教諭、担任が保護者の悩みに耳を傾け、保護者に対するサポートを行った。 ・教育・保育の取り組みについて、クラス懇談会、個人懇談で知らせると共に、成長した姿と課題の部分を保護者に伝え連携を図った。保育体験を実施し、保護者の皆様に実際に保育に入ってもらい、子ども達の姿を見ていただくと共に、園の保育について知っていただく機会とした。 ・ドキュメンテーションを用いて、生活や遊びの内容とその過程やねらい、子どもの成長を可視化して保護者に分かりやすく伝えた。 ・教育・保育理念、方針、目標、事業計画などについては、「みなみおかだより」への掲載、新入園児面接、懇談会の場を使い保護者に向けて丁寧に説明を行った。 ・園庭開放（月～金）、プール開放（計3回）、「みなみおかであそぼう」「いちごサークル」を行い、地域の親子の交流の場として支援を行うことで、地域の方に園のことを知ってもらうよい機会となった。 ・一時保育の受け入れ人数を増やし、地域の親子支援を行った。 ・授乳やオムツ交換が可能なスペースを設置して、当園が「赤ちゃんの駅」であることを掲示板や豊中市のホームページやガイドブックに掲載し、地域の親子に知らせご利用いただいた。 ・園長、主幹保育教諭、地域貢献支援員（スマイルサポーター）、看護師を中心に、育児相談や子育ての情報提供と助言を行い、いつでも相談に来ていただけるような開かれた施設を目指した。 ・校区福祉委員会主催の子育てサロン“ももちゃん”の出張保育（年3回）に出向き、地域の民生児童委員の方と一緒に活動を行った。 ・年に数回ある「地域福祉ネットワーク」や「小学校区連絡会」にzoom会議で参加し、豊中市北東部の福祉に携わる施設や団体、民生委員、児童委員と連携を図り、地域の子育てについて情報交換を行った。参加したことで、地域ニーズの把握にも繋がった。
教育・保育内容	・白鳩メソッド「1日の保育の流れ」を確認しながら保育を行い、どの保育者も同じ保育ができるように徹底させた。一人ひとりの保育者がやるべきことを行えるように、園長、主幹保育教諭、クラスリーダーが中心となり連携を図りながら保育を進めた。 ・子ども達が季節の行事を楽しみ、様々な体験を積むことができるように内容を充実させながら、子ども達が主体となって活動できる行事を行うことができた。 ・特に子どもの五感に働きかける保育を行うことを意識した。その中で、大切にしてきた非認知能力の育みについては、子どもの姿としてすぐに実感できるものではないため、引き続き継続して保育の中で大切にしていきたい。 ・保育者が過度な援助や関わりをせず、子どもにじっくりと向き合いながら待つことを大切に保育を進めた。キャリアに関わらず、全員が子ども達にとってよりよい関わりができるように努め意識した。 ・「朝の意味ある運動」や安田式遊具を使った運動あそび、散歩リレーなどを継続して行い、子ども達の体力作りに取り組んだ。園庭が人工芝になったことで、より一層子ども達が活発に運動あそびなどを楽しむことができるようになった。 ・全年齢毎週1回リトミックを継続して行った。今後も各年齢の発達に沿ったメニューを検討し、保育計画に組み込んでいく。

教育・保育内容 ・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現	・担当制保育を進める中で、保育者との愛着関係が育まれていることを感じる。「じゃれつき」が苦手な保育者も、毎朝子ども達に向き合うことで、表情や関わりに少しずつ変化が見られ、子どもとの信頼関係を築くことに繋がった。 ・「チェックリスト」「1日の流れ」を活用しながら、丁寧な保育を行ったが、慣れてくると勝手な保育を行う場面が散見された。定期的な振り返りと、職員間での話し合いを大切にしながら、今後も「チェックリスト」「1日の流れ」を活かしていきたいと思う。 ・子ども自身が発見したり、喜びを味わいながら、主体的に楽しむことができる遊びを工夫したが、子ども主体と計画性のバランスのとり方に苦慮する保育者が多く、主体的な遊びや、主体的な保育について今後も学んでいきたいと思う。 ・乳児クラスでは、保育者の愛情豊かな関わりの中、乳児担当制保育や毎朝の「じゃれつき」などを通して、保育者との愛着関係の構築に努めた。 ・子ども達は、「朝の意味ある運動」やリトミック、フットサル、散歩、安田式遊具（鉄棒・平均台・雲梯・ジャングラミング）などを使った運動あそびを通して、体を動かすことを十分に楽しみ、運動能力を高めることができた。 ・保育者自身がおもいきり楽しみ、子どもと一緒に遊びに夢中になることができることを大切にしたい。今後も保育の軸として大切にしていきたい。
特別支援教育	・配慮が必要な子どもについては、一人ひとりの子どもの発達過程や配慮の状態、家族構成、家庭での様子など個々が抱える背景を把握し、関係機関と連携を密に取り、対応を行った。 ・インクルーシブ保育「共に育つ」ことを大切にしたい保育を進めた。また、園全体で見守る意識を持つことで、クラス担任や、加配担当者とのみの関わりではなく、様々な人との関わりを持つことができ、子どもにとっても保育者にとってもプラスとなった。 ・支援や配慮が必要な子どもが増加したことで、ミーティングなどの時間を使って、子どもの姿を捉え、職員間で共有することを大切にしたい。 ・要保護対象として、虐待などの見守りが必要な園児に対して、園長、主幹保育教諭、担任が関係機関と連携を密に取りながら対応を行った。 ・加配児以外で個別の配慮が必要な子どもが増えている。クラスだけではなく、園全体で見守り、必要な援助、配慮を行うように努めた。 ・定期的に保護者と面談の機会を持つなどして、子ども達の家庭での姿について連携を図りながら、成長を保護者の方と共有し、共に見守ることができた。

職員の資質向上	・法人の理念、方針を達成できる職員を育成するために、白鳩会保育メソッドを基に園内にて研修を行った。 - また、外部研修や法人研修などにも出掛け、学ぶ機会を持つことができた。また、zoomやYouTubeでの様々な研修会に積極的に参加するようにした。保育者のキャリアアップ研修参加を進めた。 ・本園での研修や実習、行事への参加を継続させ、教育・保育内容や子どもへの関わりについて学びを深めることができた。しかし、参加した職員とその他の職員の学びへの温度差を感じ、共有の難しさを改めて感じた。今後もいろいろな職員が研修などに参加できるように検討していきたい。 ・リトミック研修での学びを職員間で共有しながら、継続して学ぶ機会を持った。各年齢の子どもの姿や発達に合わせた動きについて考察する機会を作り話し合いを行った。 ・白鳩メソッド「1日の保育の流れ」を使い、新任職員に丁寧に指導を行った。先輩保育者から業務指導を行い、安心して仕事を覚えることができる指導体制を整えた。
幼保小中の連携	・豊中市内の17校区别に行う保幼小連絡会（南丘小学校区と、東泉丘小学校区の2つの連絡会に所属）で情報の共有を図ることができた。 ・年長児が入学する予定の小学校に出掛け、1年生との交流や、校内見学、授業への参加を体験する機会を持つことができた。 南丘小学校、東泉丘小学校へは全園児で参加した。その他の小学校へは保護者の方と一緒に各自で参加をしていただいた。
関係者評価の取り組み	・豊中市教育保育環境ガイドライン評価シートを活用し、自分達の保育の確認、振り返りを行い、課題に向けて改善を行った。 ・今後第三者評価の受審を行う予定。 ・白鳩チルドレンセンター東大阪の理事長などが、自園の保育内容について観察、評価を行い、職員間で共有した。課題として見えてきたものを具体的にカリキュラムに落とし込み保育を行っていく。
その他	・「豊中市人権保育基本方針」を全職員で確認し、人権保育を意識して保育を行うことを意識した。 ・「種をまこう」「ヒューマンライツカレンダー」を利用し人権保育を行うと共に、教材を使ってSDGSの取り組みを進めた。 ・子ども達と一緒にSDGSの取り組み（ちきゅうフレンズ）を始めた。5歳児が定期的に絵本や映像を使った取り組みを行う。その中で自分達ができることを自ら考えることができるように取り組みを進めた。 ・「虐待」について職員全員で学びを深め、子ども達への関わり方を確認し合った。 ・事務所前に「意見箱」を設置し、保護者からの意見を集約した。意見には概ね24時間以内に対応し、掲示板へ回答書を貼り出した。 ・苦情解決責任者を園長、苦情受付担当者を主幹保育教諭として苦情解決に努めた。苦情解決システムについては、ガイドブックや新入園児説明会、おたよりなどで保護者に周知した。 ・保護者からの苦情や意見は真摯に受け止め、「園内における問題点（苦情処理）事例と経過」にまとめた上で、全職員で共通認識し迅速な対応を行った。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課題	具体的な取り組み方法
担当制保育 少人数グループ制保育	●日頃から0，1，2歳児は担当制保育を行い、子ども達一人ひとりにしっかりと向き合うことができるようにしてきたが、保育の振り返りの中で、保育者主導で保育を行うことがあることが見えてきた。 そのため、再度子ども達に合わせて、待つことができる保育を進めた。 また、毎朝の「じゃれつき」を大切にしながら子ども達との愛着関係をしっかりと築くことができた。 ●保育者自身の声の大きさを考え、関わり方も子ども達にとって必要なものかを考えることを大切にした保育を行った。
ICTの活用	●タブレット端末や、バージョンアップしたChild Care Webを最大限活用することができるように、使い方について園内研修を行った。しかし、まだまだ操作が苦手な職員も多いため、扱いに慣れることができるように得意な職員が中心となり、指導ができるような体制を整えていきたい。
その他	●2025年度より、豊中市のオンライン一時保育システム「ミチシルベ」を導入し、保護者がWEB上で簡単に登録や予約ができるようになった。今後も「ミチシルベ」を活用していきたい。 また、一時保育の子ども達と在園児それぞれが落ち着いて過ごすことができる環境設定と保育内容を考え、実施していきたい。